

西之島の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

< 火口周辺警報（火口周辺危険）が継続 >

西之島で噴火が発生し、大きな噴石が火口から 400m 程度まで飛散していることを確認しました。気象衛星ひまわりの観測によると、西之島の輝度温度に、12 日夜から上昇傾向が認められます。

【防災上の警戒事項】

火口から概ね 500m の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

活動概況

12 日 12 時頃に海上保安庁が上空から実施した観測で、西之島の火口付近で噴火が確認されました。海上保安庁の 14 時頃と 16 時頃の観測によると、その後も引き続き噴火が発生しており、提供された映像から大きな噴石が火口から 400m 程度まで飛散していることを確認しました（図 1～2）。

気象衛星ひまわりの観測によると、西之島の輝度温度に、12 日夜から上昇傾向が認められます（図 3）。

これらのことから、火山活動が徐々に高まっている可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

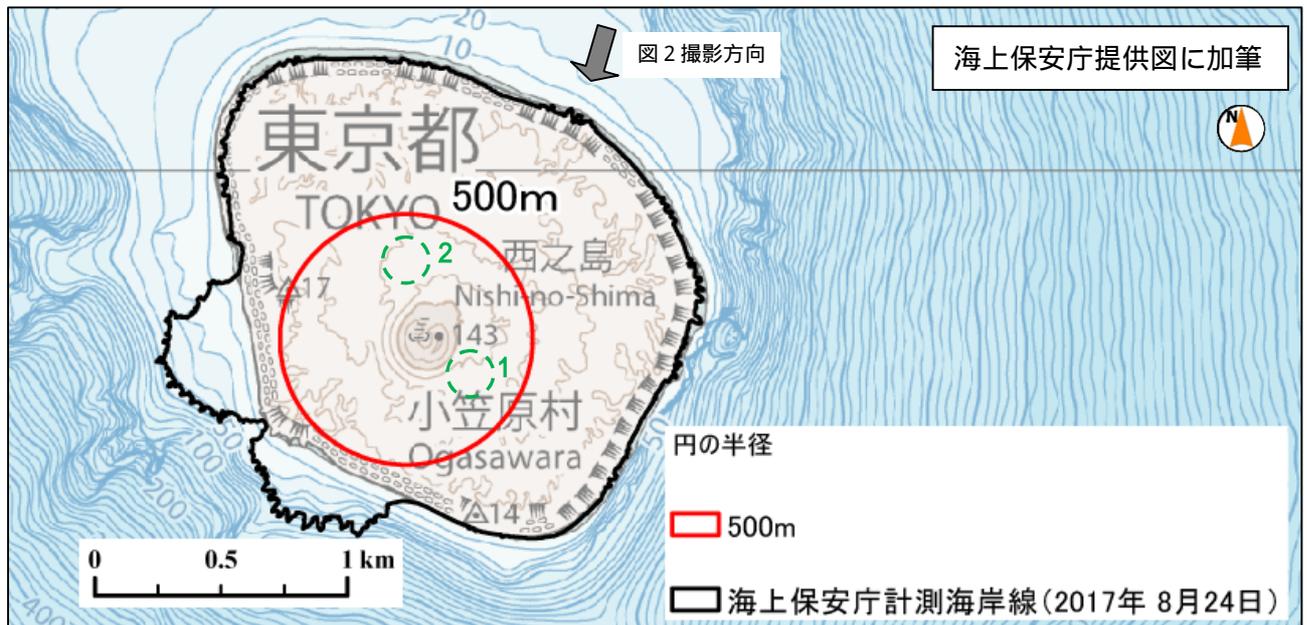


図 1 西之島 警戒が必要な範囲（火口から概ね 500m の範囲）と図 2 で示した大きな噴石の位置（緑破線丸）

海底地形は噴火前のもので、現状とは異なります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）

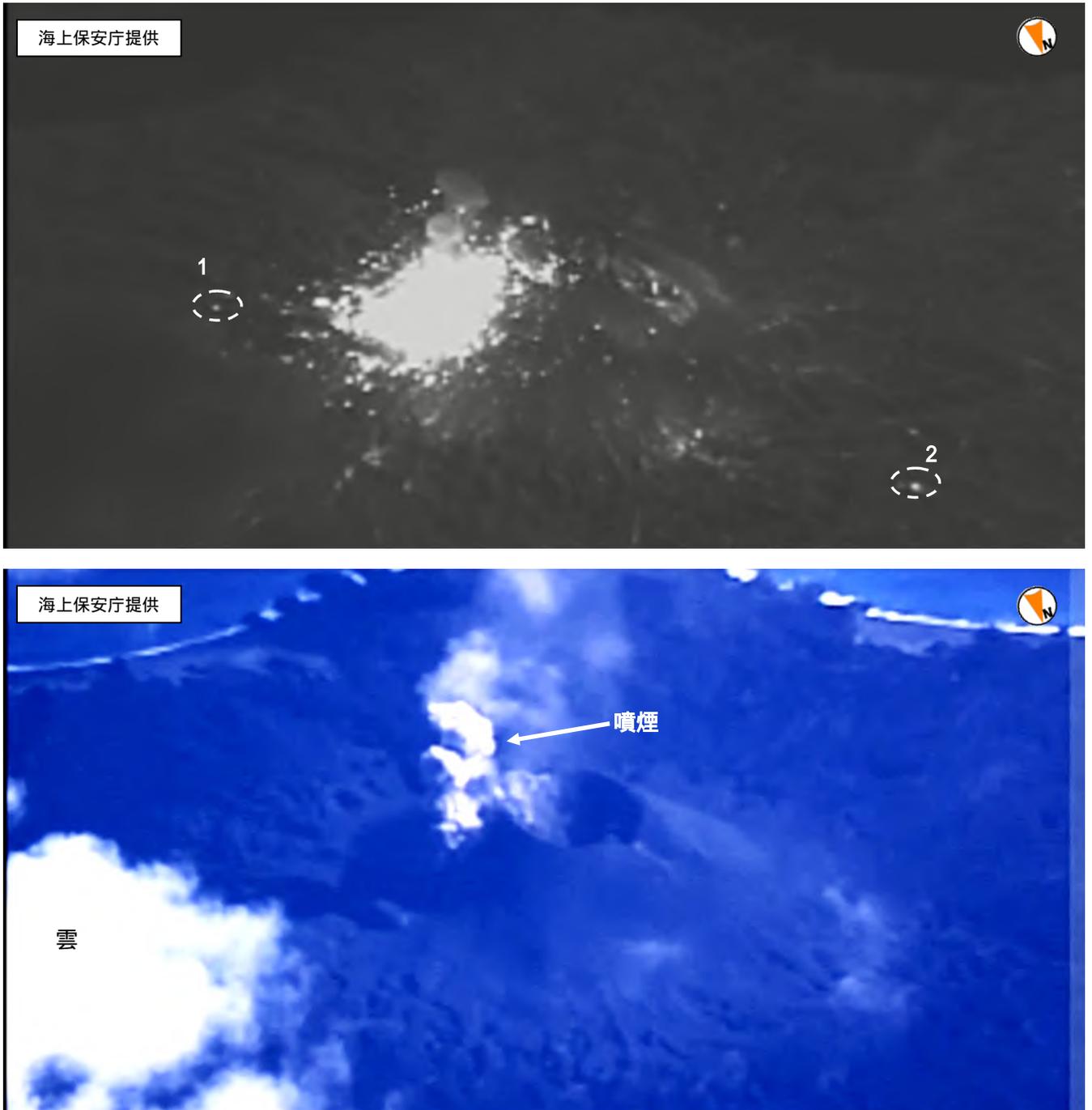


図2 西之島 噴火の様子(上段:熱画像、下段:可視画像)(7月12日16時頃撮影 海上保安庁提供)
白破線丸は、飛散した大きな噴石を示します。

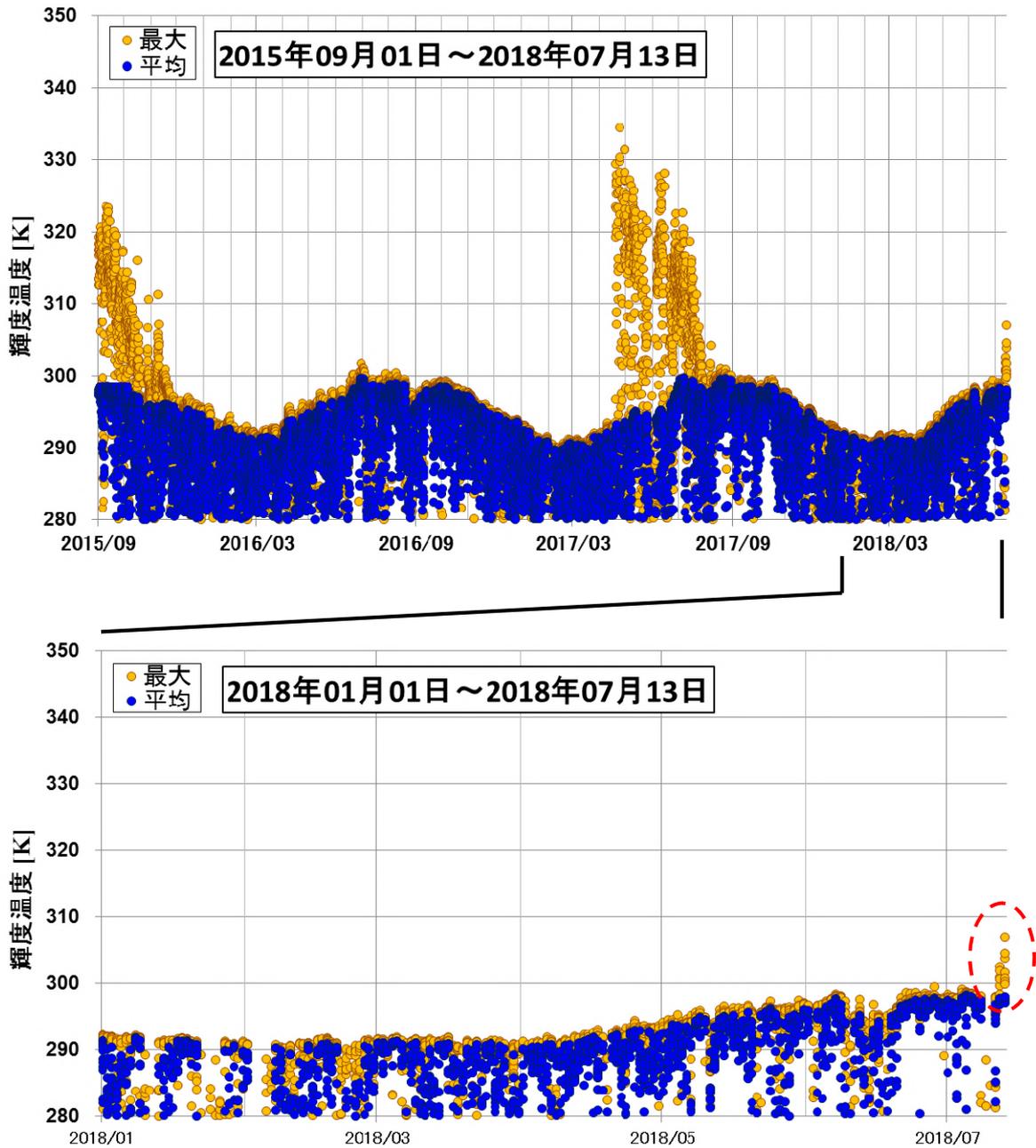


図3 西之島 ひまわり8号の観測による西之島付近の輝度温度の変化

輝度温度は中心波長 $3.9\mu\text{m}$ 帯による観測。

西之島を含む概ね 30km 四方の領域内の輝度温度の、最大値と平均値を示しています。

日射による影響を除外するため、夜間の観測値のみ解析しています。

・気象衛星ひまわりの観測によると、西之島の輝度温度に、12 日夜から上昇傾向が認められます(赤破線)。



図4 伊豆・小笠原諸島の活火山分布、及び西之島の位置図
西之島は、東京の南約 1000km、父島の西約 130km に位置します。